

第 1 回阿賀野市道の駅整備検討委員会 会議録

開催日時	平成 28 年 11 月 22 日(火曜日) 午前 10 時 00 分～11 時 45 分
開催場所	阿賀野市役所 4 階 403 会議室
出席委員 (13 名)	池田委員長、井上副委員長、稲毛委員、波多野委員、大澤委員、五十嵐委員、 小林委員、佐藤委員、加藤委員、渡邊委員、百都委員、松永委員、高橋委員
欠席委員	なし
事務局	土岐産業建設部長、 総務部 市長政策課 菅原課長補佐、総務課 長川危機管理監、 民生部 生涯学習課 鈴木課長補佐、 産業建設部 農林課 星野課長補佐、商工観光課 鈴木課長補佐、建設課 佐 藤課長、松崎課長補佐、加藤係長、小林主任、藤塚主事、山崎主事
会議事項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 開会 (2) 市長あいさつ (3) 自己紹介 (4) 委員長・副委員長の決定 (5) 道の駅整備の説明 <ul style="list-style-type: none"> 1) 阿賀野市「道の駅」整備検討委員会設置要綱について 2) 阿賀野市の現状について 3) 「道の駅」の全国・県内の状況について 4) 阿賀野市「道の駅」整備について 5) スケジュールについて (6) 意見交換 (7) その他 (8) 閉会

市長あいさつ

この検討委員会で皆様からご議論いただくのは、「道の駅」3.3haの中でどのような施設を配置して、「道の駅」として多くの方が訪れる、あるいは色々な方が利用できることなど、皆様方からご議論いただきたいと思っております。

一つには交流・にぎわいの場、そして情報発信、観光振興の場あるいは災害時の防災の場、万が一の場合、そこへ他の地域からの応援そして他の地域での非常事態にはそこを基地とする防災拠点として整備をしていきたい、そういった具体のものを皆様からご検討していただき私の方へご提言いただけたらと思っております。

今後、皆様方から色々な形でご意見いただきます。阿賀野市の地域振興の拠点になりますのでどうかよろしくご支援をいただきますようお願いを申し上げますご挨拶にかえさせていただきます。

自己紹介

各委員が自己紹介

委員長・副委員長の選出

次のとおり

○委員長

新潟青陵大学 特任研究員 池田委員

○副委員長

北蒲みなみ農協 専務理事 井上委員

○委員長あいさつ

新潟青陵大学の池田と申します。ただいま互選により委員長に選んでいただきました。有難うございます。

「道の駅」について皆様方とさまざまな議論をしていければよいと思います。本日及び今後も委員会をよろしく願います。

○副委員長あいさつ

北蒲みなみ農協の井上と申します。この委員会が成功されるよう皆様のご協力をお願いいたします。

道の駅整備の説明

- 1) 阿賀野市「道の駅」整備検討委員会設置要綱について
 - 2) 阿賀野市の現状について
 - 3) 「道の駅」の全国・県内の状況について
- 一括して事務局が資料に基づき説明

(質疑応答)

委員長 先進的な「道の駅」の事例の中で、評価されている傾向はなにか。

事務局 成功している「道の駅」では、多種多様な地元の農産物・加工品を提供しており、地ビールやアップルパイ、ソーセージの山賊焼など新鮮で、出来立てが味わえることなど、家族連れが半日程度滞在できることが考えられる。

委員長 日常的に、住民が利用できることが重要であると思う。

4) 阿賀野市「道の駅」整備について

5) スケジュールについて

一括して事務局が資料に基づき説明

(質疑応答)

委員長 皆さんに、「道の駅」のイメージなど、整備コンセプトのキーワードを出していただきたい。事務局から他の「道の駅」の整備コンセプトの事例を説明してもらいたい。

事務局 県内で「道の駅」の整備を現在進めている町の整備コンセプトは、「近き者よこびて、遠き者来る」である。「近くの住民の方が喜ばば、遠くの方もくる」という論語（イメージ）である。

委員長 この例のようなキャッチコピー、宣伝文句のようなことを、作成するためのイメージや機能、整備のあり方などを、皆さんからご意見いただきたい。

自由意見

委員 バイパスができると水原地区を通らなくなる。整備規模や堤防にも公園があることを考えると、駐車場の位置は、国道と堤防の両方から利用できる位置がよい。

委員 河川に隣接していることもあり、防災機能を兼ねるとのことで、道路の高さを考えてもらいたい。

委員 成功している「道の駅」の事例のように「農業+観光」となるのではないか。阿賀野市は農業も盛んであること、新潟側の市の入口でもあることで、観光の拠点としてインフォメーション的なものも必要である。地元住民をはじめ、常に人がいてにぎやかであることを考えた方がよい。若い子供連れが半日いて楽しめるようになれば、高齢者も来ることになると思う。

委員 市民以外もターゲットにし、例えば新潟市のイベントを実施できるようなことを考えたらどうか。

委員 観光の入口とし、大自然や癒しのような柔らかいイメージではないか。デパートがあるようなイメージではない。

委員 多くの人が集まるような施設がよい。

委員 「道の駅」を充実させると、観光案内や地元の人が買い物に来るなど地域交流が盛んになる。

委員 生産者の表示をするだけでなく、収穫した人が直接お客さんと対面して販売できるようにした方がよい。

- 委員 その場で食べれるぽっぽ焼きや、その場でないと味わえないものなどの販売などがあってもよい。
- 委員 バーベキューなど、火の扱いを考える必要があるが、自動車を持ち上げて1日滞在できることなども考えてよいのではないか。
- 委員 市にとって情報発信など「道の駅」の機能として必要な部分や公園も必要であると考えられる。農産物などの販路については、よく考える必要がある。
- 委員 今後は、人口減少の中で、箱物などのランニングコストもかかり、不安な部分がある。
- 委員 阿賀野市の魅力は「人」と考えている。人の和の創出が必要と考えている。
- 委員 議論してよいものを造ってもらいたい。
- 委員 国道49号バイパスができることにより、通過交通にならないよう阿賀野市の魅力を発信することが必要である。ここを介して、魅力ある地域を回遊することができればよいのではないか。市内外の人にとって道の駅に来れば必要な情報や物が手に入るということを整備のコンセプトにしてはどうか。
- 委員 賑わい、交流と言われているが、いかにして人に来ていただくか、「道の駅」を介して人を誘導し市内でお金を使ってもらうかが重要。市内への誘導(仕掛け)をしたらどうか。地産地消も重要であるが、人口減少の中において、市外の人をいかに連れてきて、お金を落としてもらうことが、地域の活性化につながるのではないかと思う。
- 委員 阿賀野市の全てのものの情報発信ができる場として考えている。そこには賑わい、憩いの場なども必要と考える。
- 委員 お金をかければいくらでもできるが、他の「道の駅」が、どのくらいの規模と予算を使い、阿賀野市がどのくらいのことを考えているか、その辺も知りたい。
- 委員 「道の駅」は、阿賀野市を周知し・認知度を上げる場であると考えます。
- 委員 「道の駅」をつくっても誰も来ないでは問題である。近隣の新潟市ではスーパーやショッピングセンターがあり、そこに行く人たちに寄ってもらうには、どのような「道の駅」にするか真剣に考える必要がある。
- 委員 阿賀野市の周辺には子供と遊べる公園があるが、木陰がない。自然を生かした公園がよいのでは。
- 委員 京ヶ瀬と新潟市の間には何もないので、新潟市から来て「道の駅」があるとトイレ休憩ができ、情報収集ができるのでちょうど良い場所だと思う。
- 委員 全国には成功している「道の駅」、失敗している「道の駅」もあり、失敗すると自治体がフォローすることになるため売上や規模を考えた方がよい。
- 委員 阿賀野市には総合的に情報発信をする場がない。「道の駅」で総合的に情報を発信したらどうか。トイレ休憩などで立ち寄った人が、「どこかいいところがないか」と尋ねてきたら、細かいことを含め、案内人を配置しながら総合的な情報発信ができればよい。また、地産地消が望ましいが、通り道の人にもよっていただけよう特産品を置くのが良い。授産施設の利用も考えていただきたい。
- 委員 防災機能はよいことだと思う。阿賀野市には温泉があり、宿泊施設の避難訓練の場としての活用。また、非常時の食事の作り方を体験させる場など、阿賀野市独自の防災拠点になるとよい。

委員 自分が市外・県外の人でどのような「道の駅」であれば寄りたいか、どのような「道の駅」だったら滞在したいかを考えてみた。阿賀野市は「酪農の発祥の地」であるので、その情報を発信するとともに、「道の駅」に牛がいて、搾乳、チーズ工房など体験型加工場があると子供が喜ぶのでは。また、牛や動物に触れ合う機会があるとよいのでは。

委員長 私は新潟にいて、阿賀野市のイメージを思い浮かべたとき、「白鳥・瓢湖」のイメージであった。

今回、その上で、実際に住んでおられる方から、意見をいただいた。その中で、地域の情報発信について、多く意見が述べられたと思う。県内外の方をどのように呼び込むか情報や人などの発信力が重要だと思う。

これらをもとに、次回、基本構想の素案作りに活かしていきたいと思う。

その他

事務局より現地視察の予定を説明

(終了)

■検討委員会の様子

